

# 勝林寺々報

昭和六十二年度

臨時

## 昭和六十三年度代議員会議案書

昭和六十二年度

### 経過および反省

わたしたちの宗門（淨土真宗本願寺派）は、昭和六十二年、あたらしい出発を致しました。「頭如上人四百回忌法要」を昭和六十六年に迎えるに当り、「念仏の声を世界に、子や孫に」をスローガンに総合的な発展計画を樹てその第一年目を六十二年度に設定して新出発をいたしました。隣接内地の取得をはじめとする諸計画がすでに実施にうつされておりますが、勝林寺にあっても、ご門主様からの協力要請のご消息を受け、十二年代議員会において應分のご懇意をもつて賛成することになりました。この懇意については代議員会の決議と總代会の承認を経て八月、基本金会計より立替納入いたしました。

また出石組（出石郡・日高町十九ヶ寺）で行なわれている「第六期出石組門徒推進者養成連続研修（連研）」には、勝林寺より湯口久義氏ら六名の方々が参加研修されています。

勝林寺の内部にあつては、この年度、さして目立つたできごとはありませんが、例年行なつてきた行事のなかみは、この年度、一段と元実したと思われます。

まず、恒例の各種法要（報恩講はもちろん彼岸会なども）への参詣者はいつもほど満堂となつてきましたことは有難いことです。その他、仏事・仏婦共催の諸行事も活発でした。「春季研修会」（観桜会）は、残念ながら雨天のためソフトボールの試合は流れたものの、七十名の参加があり、「真宗の葬儀のありかた」を研修したあと、新たに設備された特設舞台を中心にして盛大な観桜会がおこなわれました。これも恒例「研修旅行」は北陸吉崎別院（越後上人故跡）・東尋坊でしたが四十七人各地のサービスに大満足でした。

仏社は、前会長龜井孝氏が出石組仏社連盟会長に就任されました。またその連盟の總会においては勝林寺次男がご法話をおこないました。年末「除夜の鐘」を仏社行事のなかにはじめて設けました。仏婦は、今年はじめて二月のダーナの行事として、ご門徒のなかの「寝たきり老人」のお見舞をいたしました。また、總会（七月九日）には、会員の作品展示会をはじめ試みましたところとても盛会好評がありました。

仏社・仏婦とも、この年度、今後のすゝむべき新らしい方向を示すことのできた一年であつたと思思います。

寺族のことについて報告します。住職はかなり多忙な一年を、しかし元氣でおつとめすることができました。ご門主さま全国ご巡教の隨行講師を三回もつとめさせていただきました。ご本山や兵庫教区のいろいろな研修会やご法座もつとめさせていただきました。ただ、そうしたおつとめのために、何彼とご門徒に迷惑をおかけしたことをお詫びします。坊守は年中一度も寝たことなく、元気でつとめさせていたよきました。後継住職はこれも一家元氣でバークレーの大学院で仏教の研究に励んでおります。次男が三月結婚させていたよきました。その際お祝いくださいましたことについて厚く御礼申しあげます。

最後になりましたが、この年度には、「初参式」がすいぶん沢山ありました。それだけでも、この勝林寺が若々しくよみがえったような気のした一年でありました。

### 昭和六十二年度会計決算の報告

門徒戸数二百七戸からの常費割収入と雜収入で二百三万四千三百二十三円でした。六十一年度からの赤字繰越（六一年度には白あり災害があつたため）が十五万一千百五八円ありました。ので予算の規模は一八八三、一六五円でありました。そのため主に「法要費」「経常費」等極力切りつけた経理をいたしました。結果収支残額四万三千四九二円を六十三年度へ繰越すことができました。

昭和62年度 京セラ法人「勝林寺」			
収入の部			
項目	予算額	決算額	比較増減
総収入	1,511,58	1,511,58	0
本費収入	1,486,000	1,462,000	-24,000
積収入	50,000	72,323	22,323
計	1,584,842	1,583,165	-1,677
支出の部			
項目	予算額	決算額	比較増減
公益金	370,000	384,420	14,420
正要費	450,000	358,000	-92,000
1.施設費	100,000	30,000	-70,000
2.施設費	220,000	211,000	9,000
3.永代金	130,000	117,000	-13,000
医療費	214,100	197,177	-16,923
1.火葬場	24,100	24,180	80
2.会議費	70,000	63,000	-7,000
3.施設運営費	40,000	39,856	144
4.光熱費	80,000	70,141	-9,859
宣伝費	200,000	244,000	44,000
文具費	20,000	20,000	0
教費	50,000	51,600	1,600
文化費	475,000	498,426	23,426
1.佐道費	350,000	376,526	26,526
2.助成費	100,000	100,000	0
3.記念品費	25,000	21,900	-3,100
事務運営費	75,000	73,990	-1,010
千葉費	30,742	12,060	-18,682
計	1,584,842	1,583,165	-1,677

収支差額 1,677 - 支出 1,583,165 = 43,492

昭和六十三年度 代議員会を開催致します。代議員各位のご出席をお願い致します。

記

二月十四日(日) 午前九時半

いま日本は円高のなかで、少くとも企業家のあいだでは好景気ムードがひろがつていています。しかし日本の反対に外圧内圧の重なるなかでひん死状態にまで追い込まれてしまつた業種もあります。

ある人は、外圧のはでやかさだけに目を向けて、わざと自分のもつていてる苦惱を忘れてしまうのが賢い生き方だと考えています。しかし、どんなに目をつぶつても必ずやつてくる苦惱があります。いまや政治のうえでも、そのことを深刻に考えなければならなくなっています。

昭和63年度 宗教法人「勝林寺」歳計予算			
収入の部	項目	予算額	前年度予算額
被選金	43492	151,158	194,650
宗教収入	1962,000	1986,000	△ 24,000
報酬収入	50,000	50,000	△
計	2055,492	1884,842	170,650

  

支出の部			
項目	予算額	前年度予算額	比較増減
公職金	385,000	370,000	15,000
正会員費	150,000	145,000	0
1.西日本	100,000	100,000	0
2.報恩講	220,000	220,000	0
3.永代墓	130,000	130,000	0
4.正会員費	200,000	214,100	- 14,100
5.大正会員	24,180	24,100	80
6.会員費	65,000	70,000	- 5,000
7.香華灯明賃	40,000	40,000	0
8.光熱費	70,820	80,000	- 9,180
9.旅費	300,000	200,000	100,000
文庫費	20,000	20,000	0
教化費	52,000	50,000	2,000
収入の部	505,000	475,000	30,000
1.佐道費	380,000	350,000	30,000
2.助成費	100,000	100,000	0
3.託志金	25,000	25,000	0
4.旅宿費	75,000	75,000	0
5.正会員費	68,492	30,742	37,750
計	2055,492	1884,842	170,650

経常費割は永代経一七  
月八日九日まで)

### 「門徒台帳」書込の依頼

「門徒台帳」も四年目ごとに書き替えることになっています。  
入学祝・成人式の祝など、すべてこの台帳によつて選び出しますので、脱漏のないようお願い致します。(生年月日は正確に)

代議員会に提出ください



六十三年度	予定表
◇一月十日	門徒総代会
◇二月二十九日	連研中央教修
◇三月二十三日	春季彼岸会・仏事仏事合開設員会
◇四月十一・二日	出石組念仏奉行会
◇四月二十一日	玉日会降誕会
◇四月二十四日	出石組「連研」
◇五月二十一日	降誕会
◇六月二十一日	降誕会
◇七月二十一日	佛事佛事研修旅行
◇七月二十九日	出石組組会
◇八月二十一日	永代經法要 仏事組会
◇八月三十日	出石組「連研」
◇九月四日	出石組總代研修会
◇九月八・九日	出石組組会
◇九月二十六日	秋季彼岸会
◇九月三十日	盆参り
◇十月四日	別修(敬老)報恩講
◇十月二十一日	教区佛事三十周年記念大会
◇十月二十一・二日	報恩講
◇十一月十八日	出石組
◇十一月二十一・二日	出石組「連研」
◇十一月二十六日	秋季彼岸会
◇十二月十六日	十六夜会報恩講
◇七月三日	出石組佛事連盟總会



「教化」と「聞法」を基本にすえてはこなばかりです。

### 「懇志」納入のこと

それは一つは、バイオ・テクノロジーの発達のなかで当然問われる「人間とはなにか」。これは超高令化社会の到来のなかで「老をみとる」ということと「老をいかに生きるか」という問題が、やがてだれにも人ごとではなく迫つて参ります。

それと三つ目には、臓器移植とか脳死の問題としてすでに言われている「死」をめぐる問題です。

まず、『勝林寺寺報』でもつて、全く浄土真宗には初めての若いおかさん語りかけようと思います。

それから、これは勝林寺だけでは出来ることではありませんが、「組」かなにかで、世に行なわれている「老人大学」とは違つた「老人研修会」のようなものをつくるべく運動をしなければならないと思つています。

また、「勝林寺テレホン法話」をとくにお宅で寝ていらっしゃる方々にひろげてゆきたいと願つています。

おそらく仏事も仏婦も、そういう方向で諸行事を計画してくださるに違ないと期待します。しかしこれらはご門徒お一人お一人の理解と助言と協力がどうしても必要です。どうぞよろしくお願い致します。

「総代」は六名、任期は四年です。従来の慣例によりオリンピックの年に改選することにしております。

『迎當規定』によれば「総代は代議員会において門徒全體の中から選ばれた者を住職が委嘱する」となっています。

今回の代議員会で選考がなされますので、改選のことにつき各地区でご考慮ご用意ください。

そこで私たち、宗教の原点、真宗の本来に立ちもどるような方向をめざさなければならないと思います。儀式・儀礼だけではなく、「私自身の生老死」をみおしえに問い合わせてゆく、そういう方向をめざしたいと思います。別に変つたことではありません。今まで通り

### 昭和六十三年度 歳計予算についての案

#### 「収入の部」

常費割は一等一二、〇〇〇円。二等九、〇〇〇円・三等五、〇〇〇円。(各七三戸・一〇四戸・三〇戸)でお願いしたいと思います。

予算総額は二〇五五四九二円。

#### 「支出の部」

常総費が三〇万円になりましたのは六十一年度の額にかえしたということです。公課金は言わば自然増です。「教化費」は少し強化しました。

「門徒台帳」も四年目ごとに書き替えることになっています。  
入学祝・成人式の祝など、すべてこの台帳によつて選び出しますので、脱漏のないようお願い致します。(生年月日は正確に)